

経営比較分析表

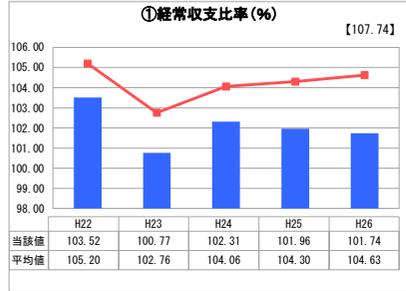
神奈川県 藤沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	64.72	95.14	78.69	2,006

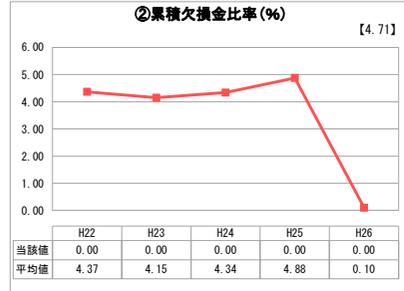
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
423,246	69.57	6,083.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
402,846	46.64	8,637.35

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

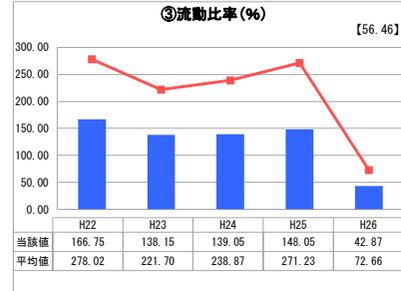
1. 経営の健全性・効率性



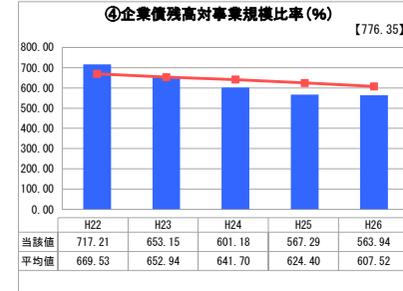
「経常損益」



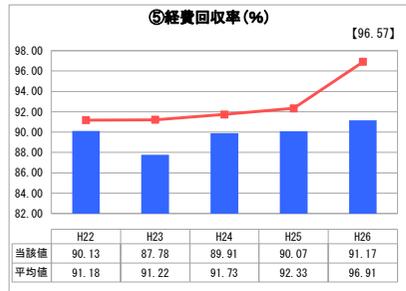
「累積欠損」



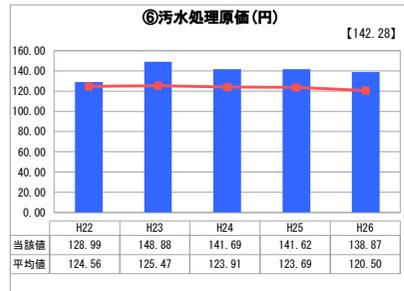
「支払能力」



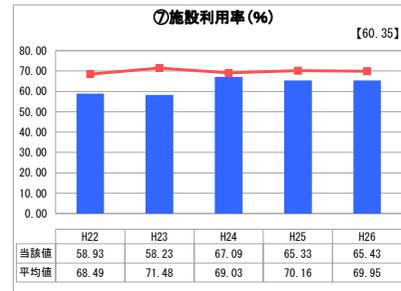
「債務残高」



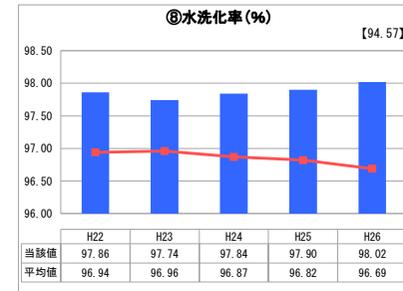
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

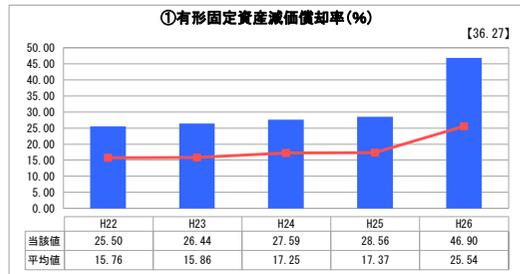


「施設の効率性」

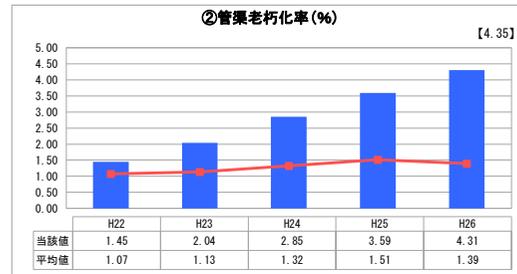


「使用料対象の捕捉」

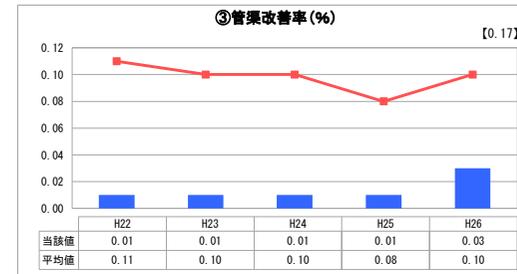
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%以上、累積欠損金比率は0%ですが、流動比率と経費回収率は100%を下回っています。
 流動比率が急激に低下したのは、会計基準の改正により、借入資本金のうち企業債を資本から流動負債へ計上したことによるものです。
 経費回収率については、放射性物資を含んだ下水汚泥焼却灰等の処理のため、汚水処理原価が一時高くなり経費回収率が低下しましたが、近年は改善傾向にあります。しかし、類似団体と比べると低いため、引き続き維持管理費の更なる削減と適正な下水道使用料収入の確保が必要です。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が急激に上昇したのは、会計基準の改正により、減価償却累計額が増えたことによるものです。
 管渠老朽化率については類似団体より高く、老朽化が進んでおりますが、投資による更新が進みつつあり、管渠改善率は上昇しています。
 現在、下水道施設及び管きよの長寿命化等に取り組み、財源の確保や経営に与える影響等を踏まえ、対策の必要があるものに優先順位をつけ、計画的に更新する必要があります。

全体総括

総体的には健全な経営が維持されておりますが、会計基準の改正により、指標等が低い水準となった部分もあることから、より一層健全経営に向けた取り組みを推進していきます。
 そのため、収入面では下水道使用料収入の見しやすさについて検討を進めていきます。
 また、支出面では下水道施設や管渠の老朽化が進んでいる状況の中、修繕・更新計画をたて、陥没や突発的な故障等に対するリスク管理を行うとともに、施設におけるライフサイクルコストの節減などに取り組みます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。